

# 令和4(2022)年度看護学部 卒業時アンケート調査集計結果

I R 推進室

## I. 看護学部卒業時アンケート調査の概要

### 1. 目的

- 1) 学生自身が看護学部における学びを振り返り、看護学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。
- 2) 1)の結果に基づき、看護学部の継続的な教育改善に役立てる。

### 2. 実施

- 1) 対象：東京純心大学看護学部 令和4(2022)年度卒業生 67名
- 2) 時期：令和5(2023)年2月14日
- 3) 配付・回収方法：令和5(2023)年2月14日の看護師国家試験自己採点・連絡の中にて配付、回答後回収（欠席者は後日回答 3月10日最終）
- 4) 回収状況：65名（回収率97%）

### 3. 質問項目

- 1) DP（「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針」の習得状況に関する自己評価
- 2) 看護学部の教育（講義・演習・実習）改善の必要性について
- 3) 看護学部の支援について
- 4) 学生の成長について
- 5) 看護学部の教育に対する満足の程度について

## II 調査結果

### 1. DP（ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針）の自己評価について

		① 身につけている	② ある程度身につけている	③ どちらともいえない	④ あまり身につけていない	⑤ 身につけていない	
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	人間の尊厳と権利を擁護する力	31 (55%)	24 (43%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)
		人間関係形成力	22 (39%)	32 (57%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)
DP2	倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	臨床判断力	18 (32%)	30 (54%)	8 (14%)	0 (0%)	0 (0%)
		科学的看護実践力	15 (27%)	35 (63%)	6 (11%)	0 (0%)	0 (0%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	対象ニーズに基づく看護実践力	21 (38%)	29 (52%)	5 (9%)	1 (2%)	0 (0%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	看護専門職として自律する力	17 (30%)	32 (57%)	7 (13%)	0 (0%)	0 (0%)
		多職種連携・協働力	26 (46%)	26 (46%)	3 (5%)	1 (2%)	0 (0%)
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	課題発見力	23 (41%)	29 (52%)	4 (7%)	0 (0%)	0 (0%)

	課題解決力	18 (32%)	33 (59%)	5 (9%)	0 (0%)	0 (0%)
	看護創造力	19 (34%)	34 (61%)	3 (5%)	0 (0%)	0 (0%)
	継続的に学ぶ力	20 (36%)	31 (55%)	5 (9%)	0 (0%)	0 (0%)

※ 2019年度入学生のみ回答（2018年度以前入学生はDPが異なるため）

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「人間の尊厳と権利を擁護する力」「人間関係形成力」「多職種連携・協働力」「課題発見力」「課題解決力」「看護創造力」「継続的に学ぶ力」において、90%を超える高い習得状況を示している。また、「臨床判断力」「科学的看護実践力」「対象ニーズに基づく看護実践力」「看護専門職として自律する力」においても、85%以上と高い習得状況を示している。

#### DP達成状況

		①身についている	②ある程度身についている	③どちらともいえない	④あまり身についていない	⑤身についていない
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	53 (47%)	56 (50%)	2 (2%)	1 (1%)	0 (0%)
DP2	倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	33 (29%)	65 (58%)	14 (13%)	0 (0%)	0 (0%)
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	21 (38%)	29 (52%)	5 (9%)	1 (2%)	0 (0%)
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	43 (38%)	58 (52%)	10 (9%)	1 (1%)	0 (0%)
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	80 (36%)	127 (57%)	17 (8%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「DP1」が97%、「DP2」が88%、「DP3」が89%、「DP4」が90%、「DP5」が92%と、いずれも高い。

#### 【参考】ディプロマ・ポリシー達成状況（自己評価）とディプロマ・ポリシーに関わる学修評価

		自己評価 Lv. 0-4	学修評価 Lv. 1-4
DP1	キリスト教の精神を基調とし、かけがいのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。	3.4	2.5
DP2	倫理的かつ確かな臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。	3.2	2.0
DP3	多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。	3.3	2.5
DP4	看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。	3.3	2.5
DP5	看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。	3.3	2.5

\*自己評価は「①身についている」を4点、「②ある程度身についている」を3点、「③どちらともいえない」を2点、「④あまり身についていない」を1点、「⑤身についていない」を0点として換算  
学修評価は、各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の評価G Pの平均

## 2. 看護学部の教育（講義・演習・実習）改善の必要性について

		①改善の必要がある	②改善の必要はない	③どちらともいえない
1)	4年間の講義について	15(23%)	24(37%)	26(40%)
2)	4年間の演習について	7(11%)	36(55%)	23(35%)
3)	4年間の実習について	19(29%)	30(45%)	17(26%)

☞看護学部の教育に関する改善の必要性について、「②改善の必要がない」と回答した割合は「演習」が最も高く55%、続いて「実習」が45%、「講義」が37%となっている。

## 3. 看護学部の支援

		①とても充実していた	②充実していた	③どちらともいえない	④あまり充実していなかった	⑤充実していなかった
(1)	アドバイザーによるサポート・相談について	9 (14%)	33 (50%)	19 (29%)	4 (6%)	1 (2%)
(2)	進路・就職に対するサポート・相談について	11 (17%)	30 (45%)	24 (36%)	1 (2%)	0 (0%)
(3)	国家試験対策に対する支援について	9 (14%)	25 (38%)	24 (36%)	6 (9%)	2 (3%)

☞「①とても充実していた」、「②充実していた」と回答したものを合わせると、「(1) アドバイザーによるサポート・相談」が64%、「(2) 進路・就職に対するサポート・相談」が62%、「国家試験対策に対するに対する支援」が52%と、いずれも高い割合になっている。

## 4. 本学での学びや体験を通して、入学時と比べた成長の程度

	①とても成長した	②成長した	③どちらともいえない	④あまり成長しなかった	⑤成長しなかった
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	18 (28%)	33 (51%)	13 (20%)	1 (2%)	0 (0%)

☞「①とても成長した」、「②成長した」と回答したものを合わせると78%と高い割合になっている。

## 5. 看護学部の教育に対する満足の種類

	①とても満足している	②満足している	③どちらともいえない	④あまり満足していない	⑤満足していない
看護学部の教育に満足しているか。	7 (11%)	27 (42%)	29 (45%)	1 (2%)	1 (2%)

☞「①とても満足している」、「②満足している」と回答したものを合わせると52%となっている。